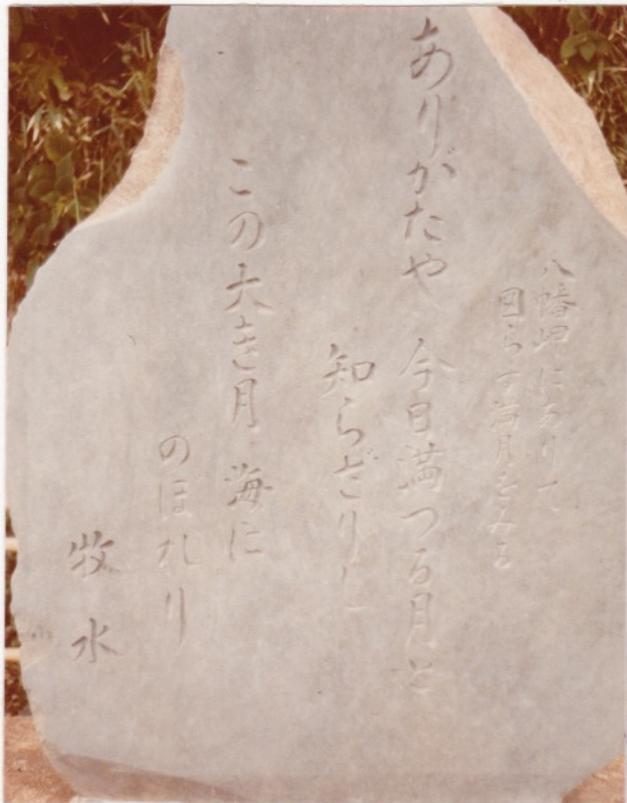




若山牧水歌碑(木碑)

所在地 千葉県館山市布良海岸 かぶと岩近くの路傍

白鳥は

かなしからずや

空の青海の青にも

染まずただよふ

牧水

若山牧水 傳記より

明治四十一年の新春は千葉県安房郡
根本の海岸で迎えた
一月四日附鈴木財藏宛の次のような
葉書がある

「房州に在ること旬日 海の香 雲の姿
涛の声 つかれし全身に満ちたれるを覚ゆ
キンガシンネン」

わが居るは安房の海に突きいでし最端
なれば日は海より出で海に落つるなり
海の中に大島浮きて旦夕煙を吐くその
右に富士明らかに見ゆ海はわがために
魂のふるさとなり みなもとなり

牧水

碑陰 文字なし



ファイル 75

若山牧水(東京都~静岡県)

若山牧水歌碑

所在地 東京都世田谷区玉川三丁目 兵庫島河川公園内

多摩川

の

砂に

たんぽぽ咲く

ころはわれにも

おもふ人の

あれかし

牧水詠旅人書

碑陰

昭和六十年三月廿日

副碑

牧水碑

左側面

牧水碑
世田谷区
玉川三丁目



若山牧水歌碑

所在地 東京都世田谷区玉川3丁目 兵庫島 河川公園内

多摩川

の

砂に

たんぽぽ咲く

ころはわれにも

おもふ人の

あれかし

牧水詠 旅人書

碑陰

昭和六十三年三月吉日

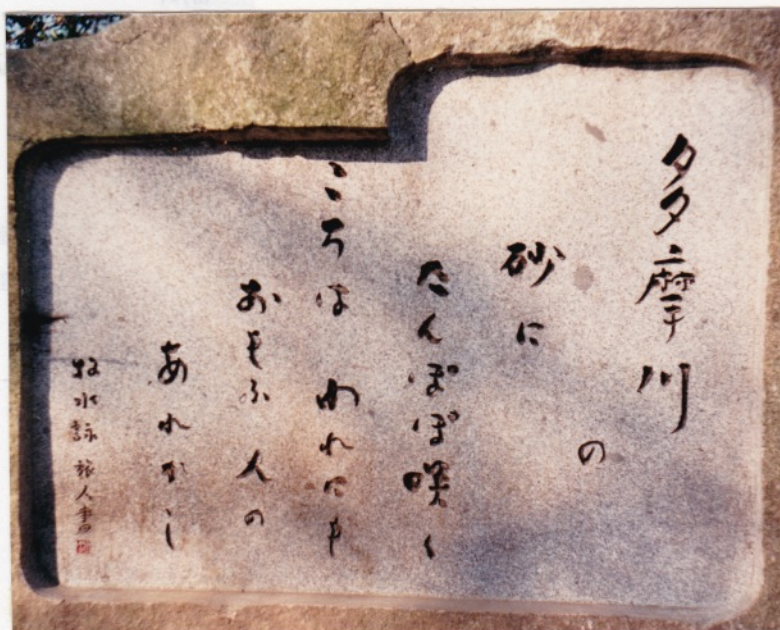
副碑

牧水碑

左側面

牧水碑 世田谷区
玉川地団協





若山牧水歌碑

所在地 東京都立川市柴崎6丁目 根川緑道 柴崎体育館東方 霧の広場

多摩川の

あさき流に

石なげて

あそべば

濡るるわが

袂かな

牧水

碑陰

平成十三年九月

贈 石田隆一



若山旅人歌碑

所在地 東京都立川市柴崎6丁目 柴崎体育館裏 立川公園内 菖蒲園入口

霧にこもれる

多摩川

いつか雨となり

芽ぶく楊も

ぬれなじめたり

旅人

碑陰

平成六年秋

贈 三田鶴吉





昔



「霧にこもれる 多摩川 いつか雨となり
芽ぶく 楊 も ぬれはじめたり」

これは 若山牧水の長男 若山旅人(大正2年5月8日生)が多摩川を詠んだ歌です。旅人は 昭和22年9月立川市富士見町2丁目に移り住み その後 父母の遺志を継いで「創作」を主宰し 作歌活動にいそしみました。

歌の大意は「いつしか雨となった。銀色の まだ早春の楊(いわゆるネコヤナギのことで 一般のしだれ柳ではない)の芽も濡れはじめた。」という意味です。

平成7年4月14日
立川市

若山喜志子歌碑

所在地 東京都立川市柴崎6丁目 根川緑道 浄水湧出口近く

喜志子

ひとりゐは

あきこそ

よけれ

わか竹の

露ふりこほす

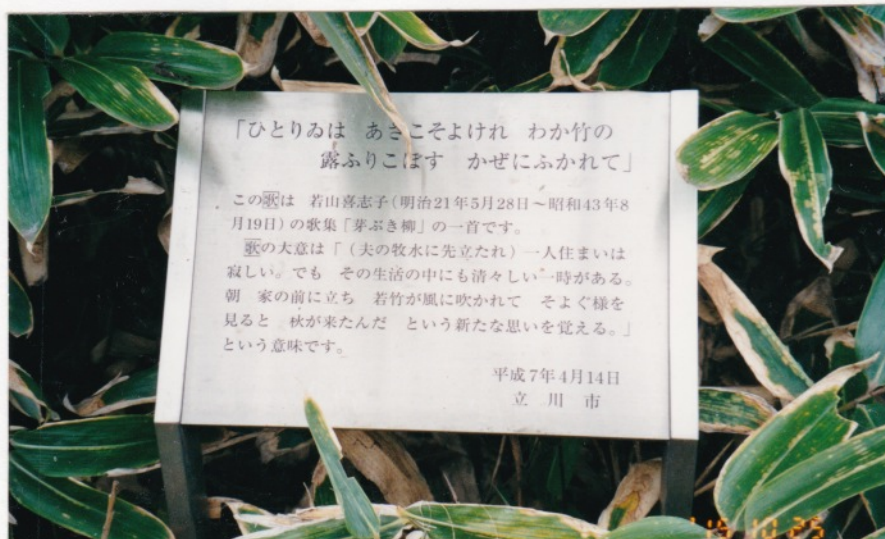
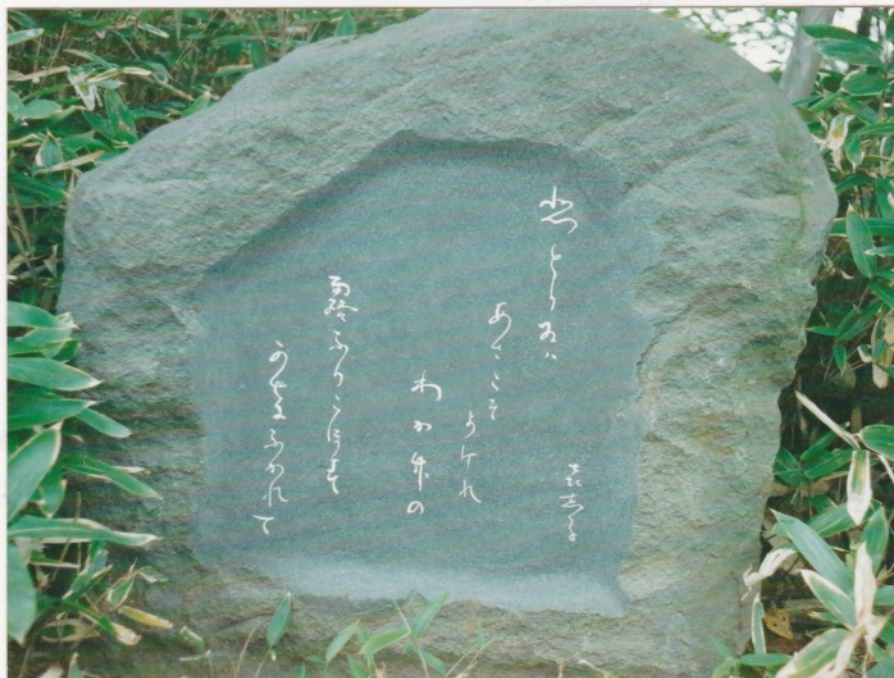
かせにふかれて

碑陰

平成六年秋

贈 草野忠正





若山牧水歌碑

所在地 東京都立川市曙町二丁目R立川駅北口

旅にて詠める 牧水

立川の驛の古茶屋

さくら樹のもみぢの

かけに見送りし子よ

碑陰

建碑のことば

市制施行十週年を迎へ郷土立川の過去を顧み
其の遙かなる将来を望む里程表として之を建つ

賛助者の御芳名 順序不同

十六名列記(省略)

千九百五十年十二月一日

発起人

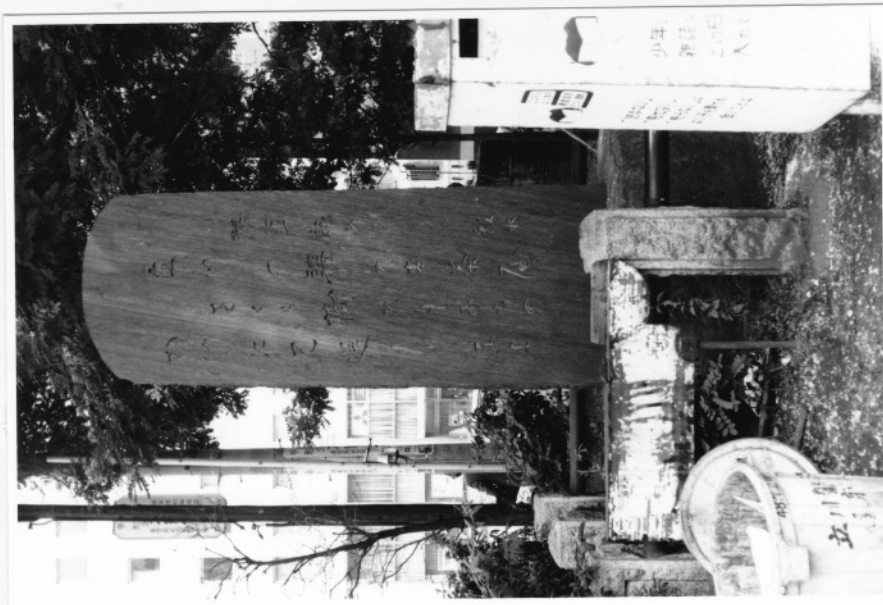
佐藤吉熊

補助者

小室兼吉

同

岡崎清平



若山牧水歌碑

所在地 東京都立川市曙町 2-1 JR立川駅 北口

旅にて詠める 牧水

立川の驛の古茶屋

さくら樹のもみちの

かけに見送りし子よ

碑陰

建碑のことば

市制施行十週年を迎へ郷土立川の過去を顧み
其の遙かなる将来を望む里程碑として之を建つ

賛助者の御芳名 順序不同

十六名列記(省略)

千九百五十年十二月一日

発起人 佐藤吉郎

補助者 小室兼吉

同 岡崎清平



若山牧水歌碑

所在地 東京都日野市百草 百草園内

山の雨しばしば軒の椎の樹に
ふり来てながき夜の灯かな

摘みてはすて摘みてはすてし野の
はなの我等があとにとほく続きぬ

拾ひつるうす赤らみし梅の実に
木の間ゆきつつ齒をあてにけり

百草園にて
若山牧水

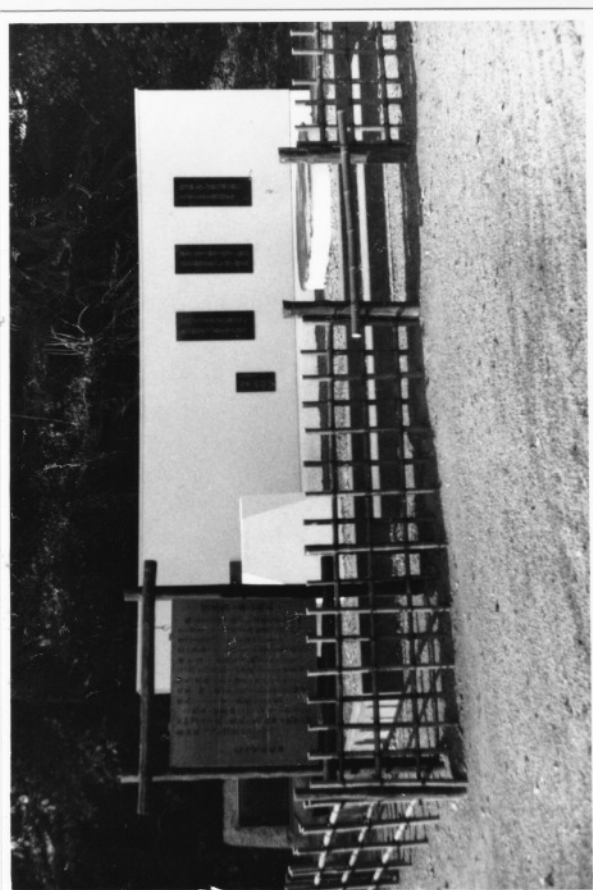
左の方

若山牧水歌碑

牧水は自然を求めて
学初に生きた歌人で早稲田大旅
数年に学ぶ頃明治三十九年
の所にあつた茶屋に滞在碑
して武蔵野の自然を詠つ
た吾人はここに其の三
首をえらび永く百草園の
為に残すものである
昭和十七年七月
日野観光協会

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 東京都日野市百草 百草園内

山の雨しばしば軒の椎の樹に

ふり来てながき夜の灯かな 碑陰

文字なし

摘みてはすて摘みてはすてし野の

はなの我等があとにとほく続きぬ

拾ひつるうす赤らみし梅の実に

木の間ゆきつつ齒をあてにけり

百草園にて

若山牧水

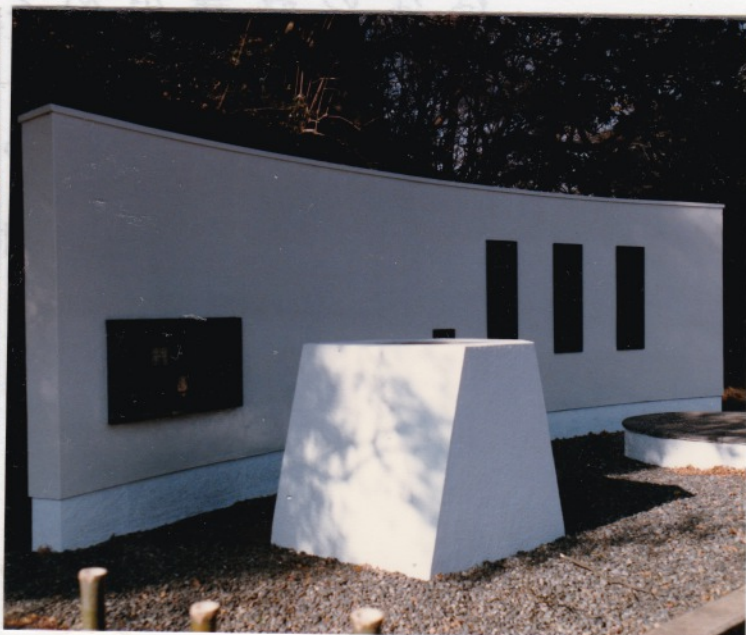
左の方

若山牧水歌碑

牧水は自然を求めて旅に生きた歌人で早稲田大学に学ぶ頃明治三十九年初めてここを訪ねその後数年に涉って当時この碑の所にあつた茶屋に滞在して武蔵野の自然を詠った 吾人はここに其の三首をえらび永く百草園の為に残すものである

昭和四十六年十一月

日野観光協会



山の雨しはば軒の椎の樹に
ふり来てながき夜の灯かな

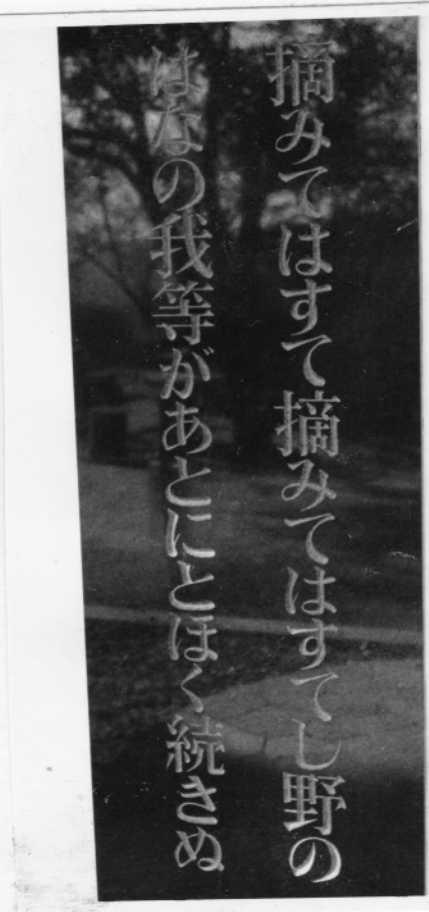
摘みてはすて摘みてはすてし野の
はなの我等があとにとほく続きぬ

拾ひつるす赤らみし梅の実に
木の間ゆきつつ歯をあてにけり

若山歌碑



山の雨しはば軒の椎の樹に
ふり来てながき夜の灯かな



摘みてはすて摘みてはすてし野の
はなの我等があとにとほく続きぬ



拾ひつるす赤らみし梅の実に
木の間ゆきつつ歯をあてにけり

若山牧水歌碑

牧水は自然を求めて旅
に生きた歌人で早稲田大
学に学ぶ頃明治三十九年
初めてここを訪ねその後
数年に渉つて当時この碑
の所にあつた茶屋に滞在
して武蔵野の自然を詠つ
た 吾人はここに其の三
首をえらび永く百草園の
為に残すものである

昭和四十六年十一月
日野観光協会

若山牧水歌碑

所在地 東京都日野市百草 百草園内

小鳥よりさらに身かろくうつくしく

かなしく 春の木の間 ゆく君

牧水詠 旅人書

左側面

日野観光協会
京王帝都電鉄株式会社
日野市
日野市教育委員会
若山牧水誕生百年記念
昭和六十年十二月 建之



若山牧水歌碑

所在地 東京都日野市百草 百草園内

小鳥よりさらに身かろくうつくしく
かなしく春の木の間ゆく君

牧水詠 旅人書

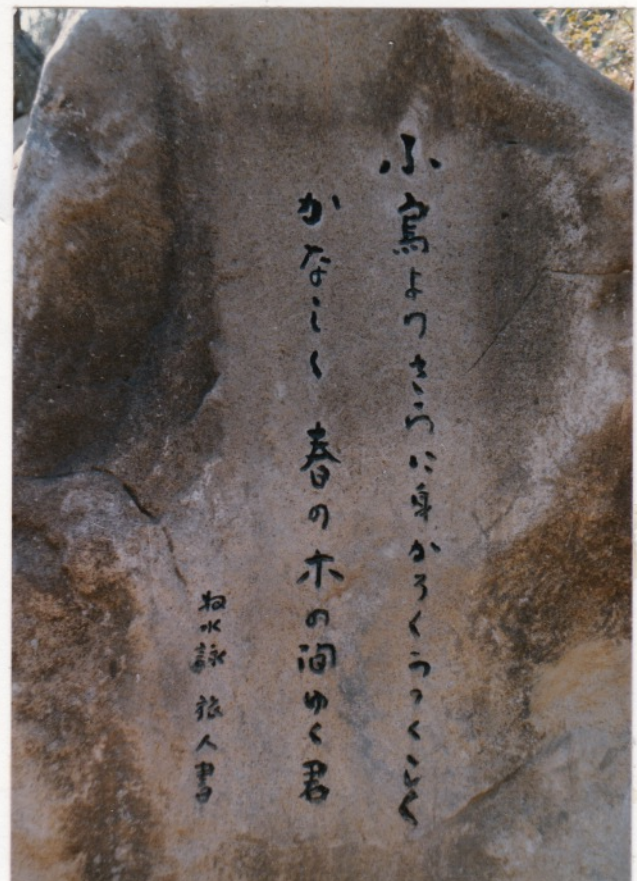
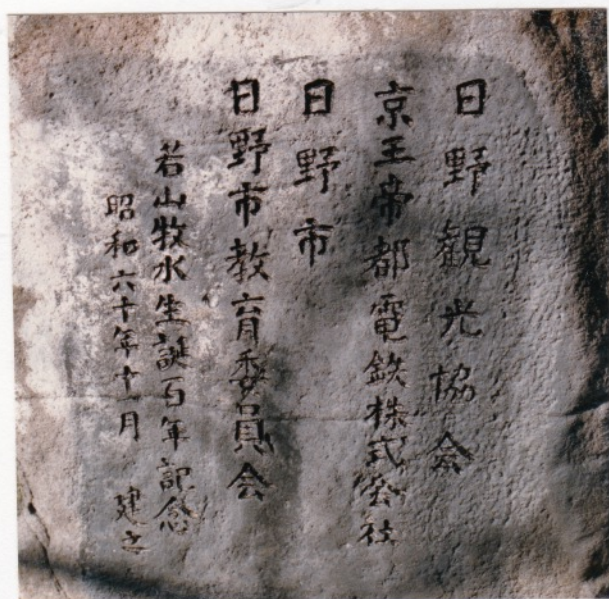


左側面

日野観光協会
京王帝都電鉄株式会社
日野市
日野市教育委員会
若山牧水 生誕百年 記念
昭和六十年十一月 建之



百草園内の茶店 ←



若山喜志子歌碑

所在地 東京都福生市福生西五 森田メガネ店 庭内

福生松原庵を
はじめて訪ひて

かへるてのわか葉
に

そよく風

ありて

梅雨に入らむ

今日の

ぐもり重た
き

若山喜志子

碑陰

昭和三十四年十二月三日

福生町
教育委員会
観光協会
婦人会
松原庵



若山喜志子歌碑

所在地 東京都福生市福生 455 森田メガネ店 庭内

福生松原庵を
はじめて訪ひて

かへるてのわか葉

に

そよく風

ありて

梅雨に入らむ

今日の

くもり重た

き

若山喜志子



碑陰

昭和三十四年十一月三日

福生町
教育委員会
観光協会
婦人会
松原庵

↑この辺りに石碑あり



山 替

333

11



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県横須賀市北下浦 長沢海岸

海越えて鋸山はかすめども

此処の長浜 浪立ちやまらず

牧水詠旅人書

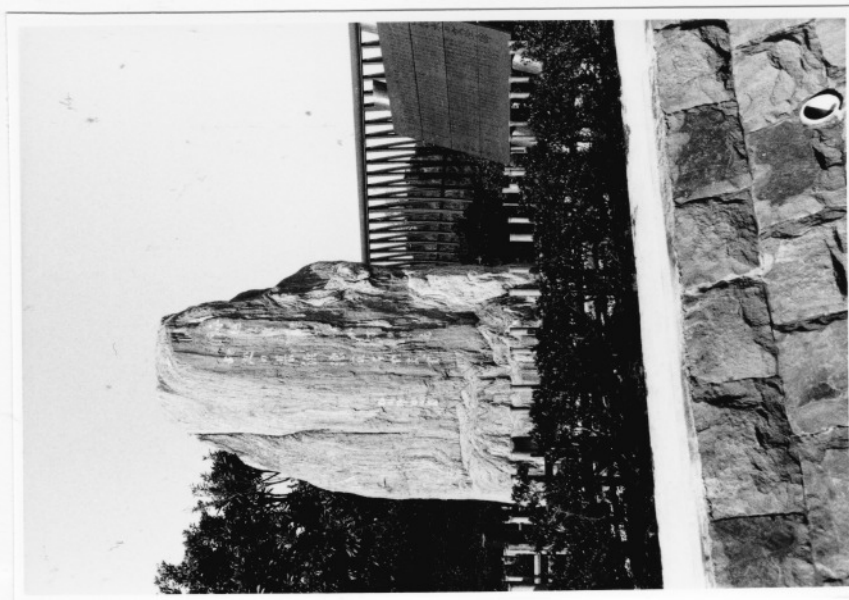
碑陰

若山牧水の歌碑を本市の第五号文学碑として
かつての彼の住居に近い、ここ長浜の海岸に建立する。
この碑を通じ、明治大正期の偉大な歌人牧水が、
長沢に住み、幾多の秀歌をのこしたあかしとしたい。

昭和六十二年 文化の日

横須賀市長

横山和夫 誌



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県横須賀市北下浦 長沢海岸

海越えて鋸山はかすめども

此処の長浜 浪立ちやまず

牧水詠 旅人書

碑陰

若山牧水の歌碑を本市の第五号文学碑として
かつての彼の住居に近い、ここ長浜の海岸に建立する。

この碑を通じ、明治大正期の偉大な歌人牧水が
長沢に住み、幾多の秀歌をのこしたあかしとしたい。

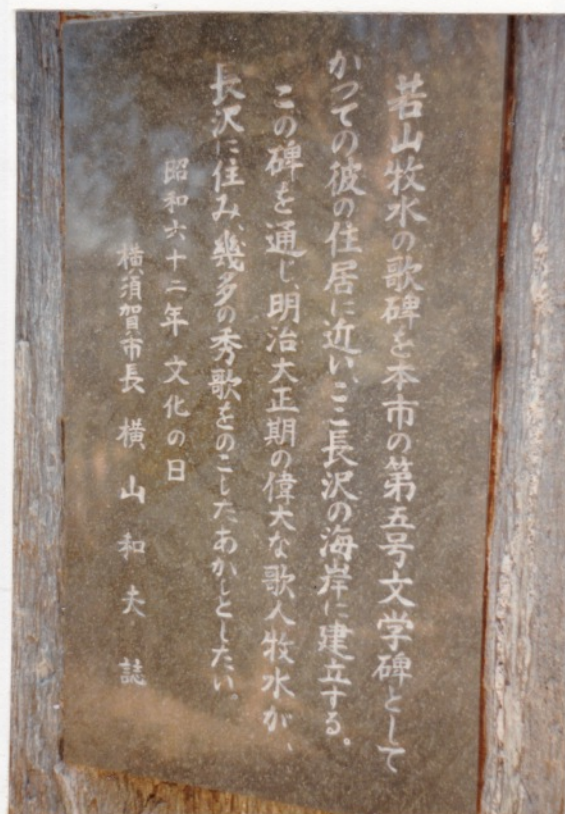
昭和六十二年 文化の日

横須賀市長 横山和夫 誌



歌碑（海越えて）

歌碑（海越えて）



若山牧水・喜志子歌碑

所在地 神奈川県横須賀市北下浦 長沢海岸

しら鳥はかなしからずや

そらの青海のあをにも

そまらずたゞよふ 牧水

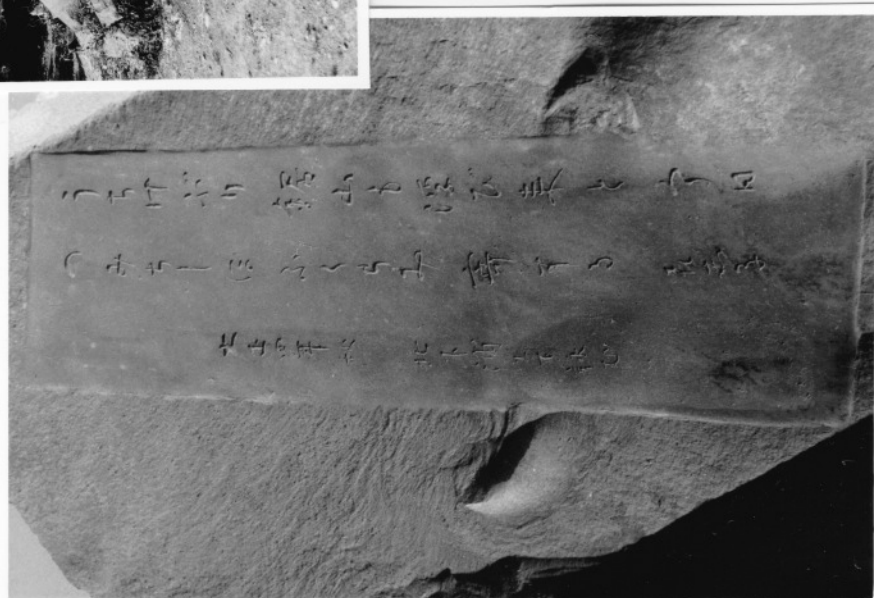
碑陰

うちけふり鋸山も浮び来と今日
のみちしほふくらみ寄する 喜志子

大正四年秋 北下浦にて詠む

下右隅部

昭和三年文化の日
横須賀観光協会



若山牧水・喜志子歌碑

所在地 神奈川県横須賀市北下浦 長沢海岸

しら鳥はかなしからずや

そらの青海のあをにも

そまずたゞよふ 牧水

碑陰

うちけぶり鋸山も浮び来と今日

のみちしほふくらみ寄する 喜志子

大正四年秋

北下浦にて詠む

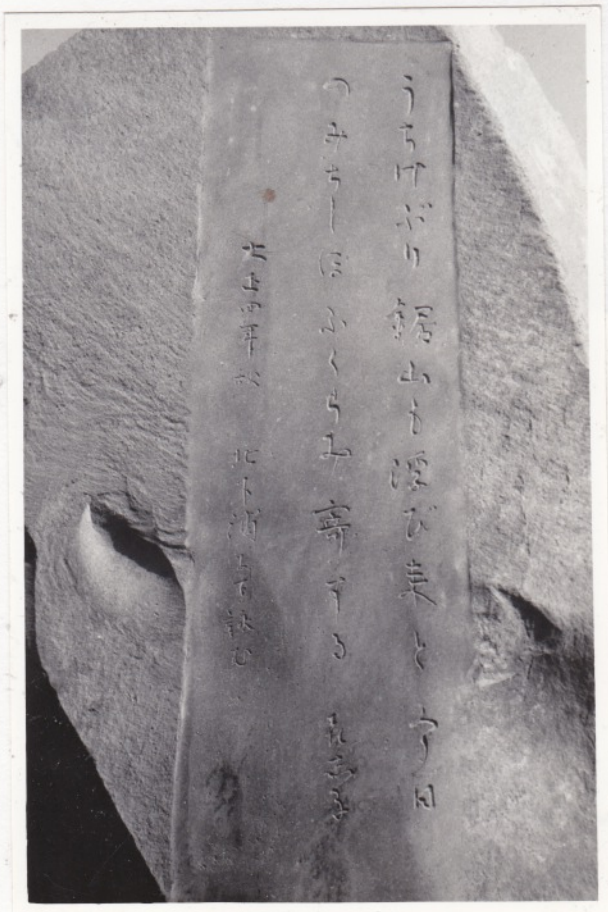
下右隅部

昭和二十八年文化の日

横須賀観光協会



歌碑の裏面と房総半島（鋸山付近）へ



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県横須賀市野比三空 最光寺本堂 前庭

酒出でつ

庭にちめんの白梅に

夕日こもれる

をりからなれや

友の僧いまだ若けれしみじみと

梅の老木をいたはるあはれ

牧水詠旅人書

碑陰

いさゝかのゆかりありしと早世の
父の名に遇ひぬ 牧水 祭

嘉代子

いさゝかの想ひ出もなき父なれと
ゆかりの人をほこりとそおもふ

都賀子

昭和六十年十一月

友の僧釈祐憲の子建之



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県横須賀市野比 2165 最光寺本堂 前庭

酒出でつ

庭いちめんの白梅に

夕日こもれる

をりからなれや

友の僧いまだ若けれしみじみと

梅の老木をいたはるあはれ

牧水詠 旅人書

碑陰

いさゝかのゆかりありしと早世の
父の名に遇ひぬ牧水祭
嘉代子

いさゝかの想ひ出もなき父なれと
ゆかりの人をほこりとそおもふ
都喜子



昭和六十年十一月

友の僧釈祐憲の子建之



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県横須賀市大津町四一 墨横須賀大津高校 おき園

紫陽花の

花をぞ

おもふ

藍ふくむ

濃き

むらさきの

花のこひ

しそ
牧水

創立八十周年

おき園完成記念

昭和六二年六月吉日

大津高校後援会

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県横須賀市大津町 4-1 県立横須賀大津高校 あじさい園内

紫陽花の

花をぞ

おもふ

藍ふくむ

濃き

むらさき

の

花のこひ

しさ

牧水

創立八十周年

あじさい園完成記念

昭和六十一年六月吉日

大津高校後援会

碑陰

文字なし



苔

海

紫



平岡十八立繪



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県川崎市麻生区片平四十二 山崎青樹(葉子)寓

わが庭の竹の林の浅けれど

ふる雨みれば春は来にけり 牧水

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 神奈川県川崎市麻生区片平 4-15-2 山崎青樹（草木寺）境内

わが庭の竹の林の浅けれど

ふる雨みれば春は来にけり 牧水

碑陰

文字なし

若山喜志子歌碑

所在地 神奈川県愛甲郡愛川町 八菅山 八菅(まげ)神社境内

この短歌は昭和
十一年三月横浜
易新報社主催県下
四十五勝選当選を記
念し中津村青年團に
て八菅神社奉賛歌
詠若山喜志子先生の
詠進されたもので
ある

碑陰

若山喜志子歌碑建設委員会
八菅神社氏子総代会
愛川町文化協会
愛川町観光協会
なみ短歌協会
創作相模支社
昭和五十二年三月建之

なみみのや八菅の宮の

宮柱ふりそひぬれば

いもったふとき

喜志子

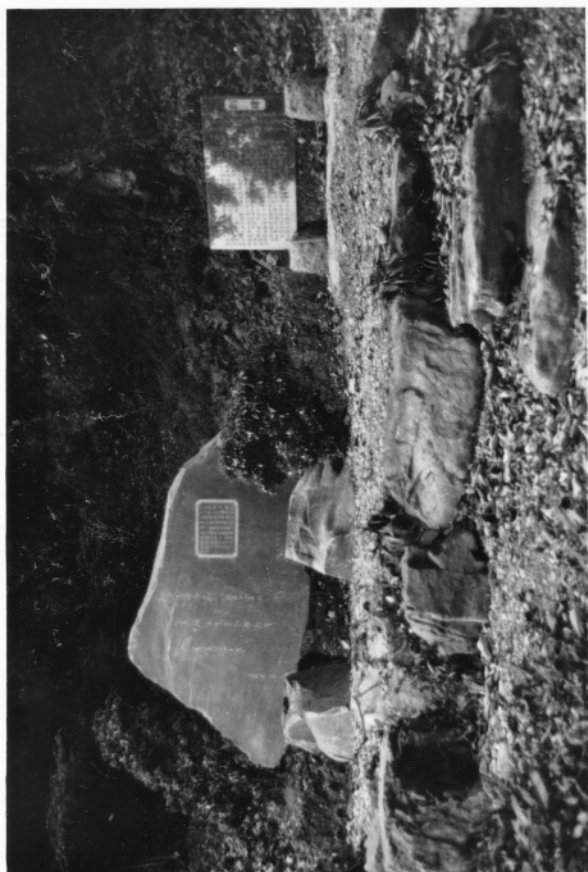
副碑

副碑

八菅神社の興隆と歌人若山喜志子師との
縁由を記念し当社氏子並びに広く文学愛
好者の協賛にちここの歌碑を建立する
昭和五十二年三月二十八日

若山喜志子歌碑建設委員会

以下 人名多数(省略)



若山喜志子歌碑

所在地 神奈川県愛甲郡愛川町 八菅山 八菅（はすげ）神社境内

この短歌は昭和
十一年三月横浜貿
易新報社主催県下
四十五勝選当選を記
念し中津村青年團に
よる八菅神社奉賛歌
献詠に際し 選者
若山喜志子先生の
詠進されたもので
ある

碑陰

若山喜志子歌碑建設委員会
八菅神社氏子総代会
愛川町文化協会
愛川町観光協会
みなかみ短歌会
創作相模支社
昭和五十三年三月建之

さかみのや八菅の宮の
宮柱ふりさひぬれは
いよゝたふとき

喜志子

副碑

碑陰 ↓

副 碑

八菅神社の興隆と歌人若山喜志子師との
縁由を記念し当社氏子並びに広く文学愛
好者の協賛によりここにこの歌碑を建立する
昭和五十三年三月二十八日

若山喜志子歌碑建設委員会
以下 人名多数（省略）

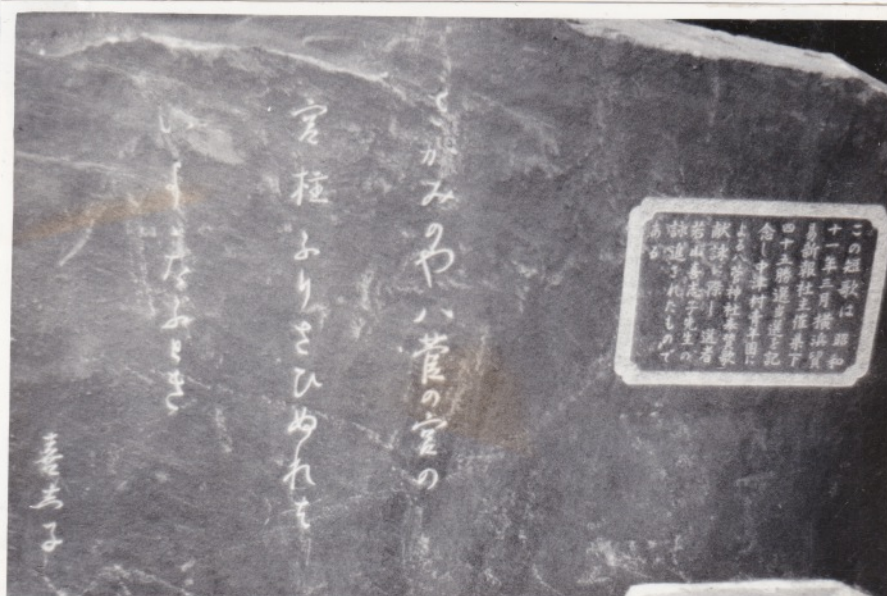




76

支那の政治

普賢菩薩心經



若山喜志子歌碑

所在地 神奈川県津久井郡城山町 津久井湖畔

今日の雪は降りつもれとも明るくて
とほく小鳥のさへつるきこゆ 喜志子

碑陰

若山牧水夫人喜志子
しばしば来遊され
この地の風物を受
し詠まれた作品が
多いこの歌は昭
和二十一年早春の
作で歌集芽ぶき柳
に収められている

若山牧水五十年祭記念

城山町

若山喜志子歌碑建設委員会建之

昭和五十二年四月



若山喜志子歌碑

所在地 神奈川県相模原市城山町 津久井湖畔

今日の雪は降りつもれとも明るくて
とほく小鳥のさへつるきこゆ 喜志子

碑陰

若山牧水夫人喜志子
しばしば来遊され
この地の風物を愛
し詠まれた作品が
多い この歌は昭
和二十一年早春の
作で歌集「芽ぶき柳」
に収められている

若山牧水五十年祭記念

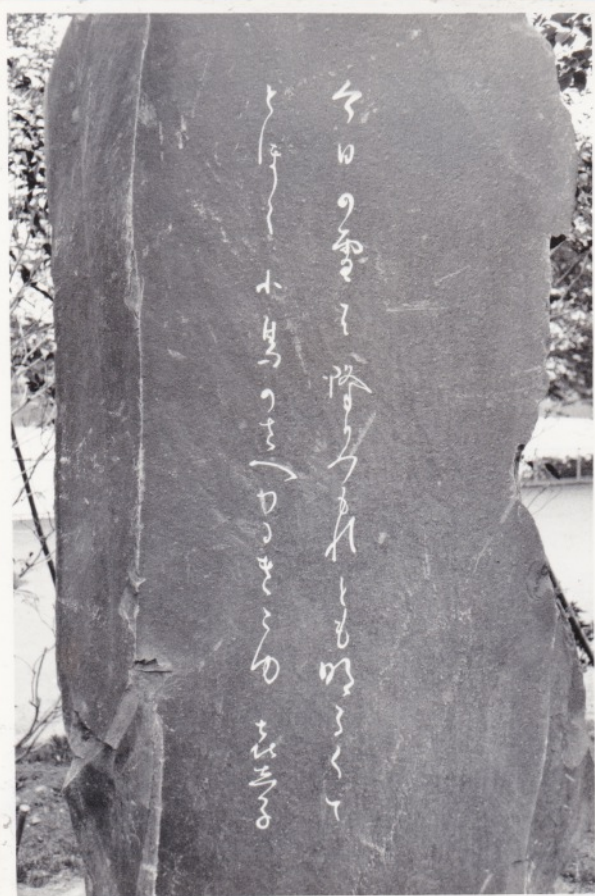
城山町

若山喜志子歌碑建設委員会建之

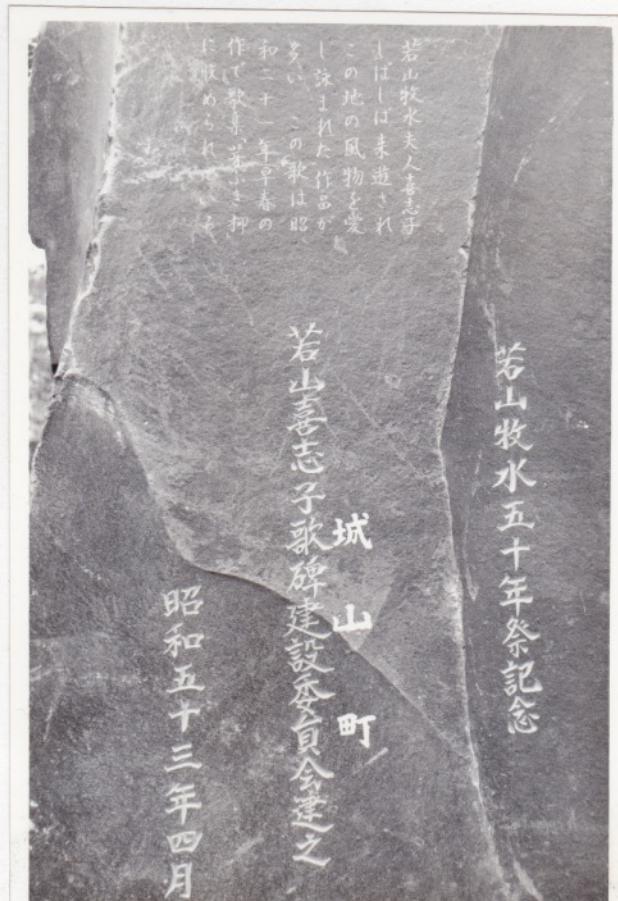
昭和五十三年四月

アノ園より

そよ風



若山牧水五十年祭記念碑



若山喜志子歌碑（加藤武雄墓誌碑）

所在地 神奈川県津久井郡城山町 都井沢 加藤武雄墓

加藤武雄之墓

右側面

法名 淨智院久遠冬海居士
昭和二十一年九月一日没 六十八歳

裏面

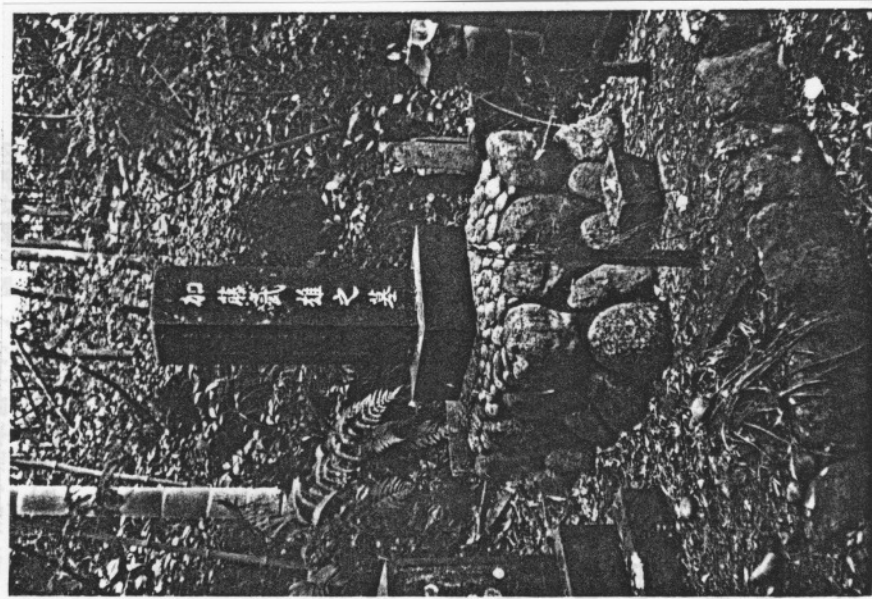
墓表は吉野秀雄先生の御揮毫 歌は若山喜志子
先生が兄の訃に寄せられしもの 此時 竜籠山
上に文学碑成る 年譜は同碑にゆずる
昭和四十年十二月 弟 哲雄 建之

左側面

夏空にわきては消ゆる白雲の

はかなくもかくれまし、君はや

喜志子
合掌



若山喜志子歌碑（加藤武雄墓誌碑）

所在地 神奈川県相模原市城山町 都井沢 加藤武雄墓

加 藤 武 雄 之 墓

右側面

法名 浄智院 久遠冬海居士

昭和三十一年九月一日没 六十八歳

裏面

墓表は吉野秀雄先生の御揮毫 歌は若山喜志子
先生が兄の訃に寄せられしもの 此時 竜籠山
上に文学碑成る 年譜は同碑にゆずる

昭和四十年十一月 弟 哲 雄 建之

左側面

夏空にわきては消ゆる白雲の 喜志子

はかなくもかくれましゝ君はや 合掌

若山牧水歌碑

所在地 山梨県北巨摩郡小淵沢町小淵沢三二 樞址活動芝多前

甲斐の國

小ふちさは

あたりの

高はらの

の

あき

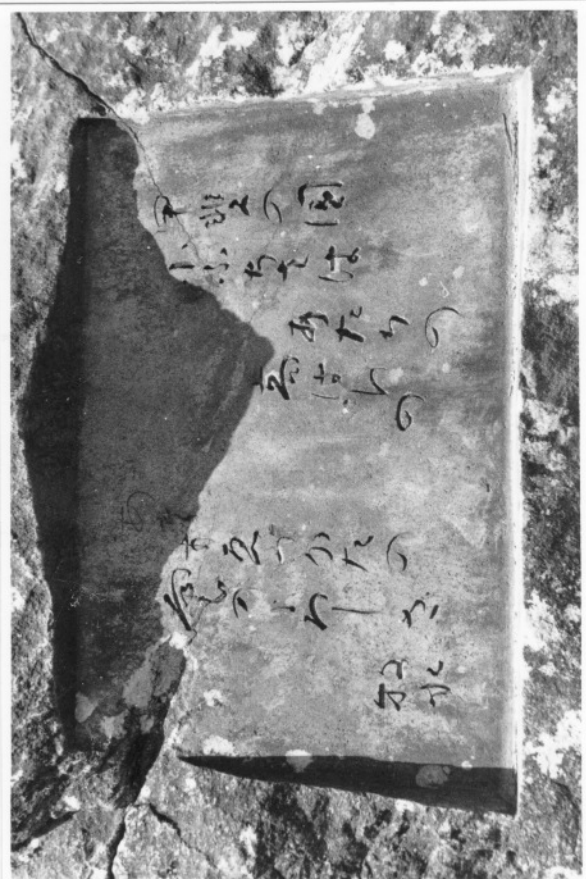
すまつかたの

雲のよろしそ

牧水

右側面

大正十二年の秋
牧水この地に来遊
楸野の秋色をめでつ
杖を松原湖小諸城址
に曳くその折書き
残し置きける歌
昭和十四年霜月三日



若山牧水歌碑

所在地 山梨県北杜市小淵沢町小淵沢 7711 福祉活動センター 前庭

甲斐の國

小ふちは

あたりの

高はら

の

あき

すゑつかたの

雲のよろしさ

牧水



右側面

大正十二年の秋
牧水この地に来遊
裾野の秋色をめでつ
杖を松原湖小諸城址
に曳くその折書き
残し置きける歌

昭和二十四年霜月十三日

重文平田家(いろり家) ↓ (福祉活動センター隣)





若山



若山喜志子歌碑

所在地 山梨県北巨摩郡小淵沢町小淵沢三二 福祉活動センター前

はに鈴のほろろこほろぎ夜もすがら
枕のしたのあたりにて鳴く

喜志子

碑陰

小淵沢町ふるさと創生事業

平成元年十一月吉日建立

副碑

若山喜志子歌碑

はに鈴のほろろこほろぎ夜もすがら
枕のしたのあたりにて鳴く

喜志子 詠書

平成元年十一月、小淵沢町がふるさと創生事業の一環として建立したものである。
この歌は、夫の歌碑除幕のため、昭和二十四年十二月十三日、喜志子夫人の二米焼をいただき除幕式を行った。その夜、奥平の旅館に泊り、次の夜、久保の進藤泰木氏宅に泊り、奥平の旅館で詠ったものである。
現在、自筆の詠書として保存されており、それを歌碑としたものである。



若山喜志子歌碑

所在地 山梨県北杜市小淵沢町小淵沢 7711 福祉活動センター前庭

はに鈴のほろゝこほろき夜もすから
まくらのしたのあたりにて鳴く

喜志子

碑陰

小淵沢町ふるさと創生事業
平成元年十一月吉日建立

副碑

若山喜志子歌碑

はに鈴のほろろこほろぎ夜もすがら
枕のしたのあたりにて鳴く

喜志子詠、書

平成元年十一月、小淵沢町がふるさと創生事業の一環として建立したものである。

この歌は、夫牧水の歌碑除幕のため、昭和二十四年十一月十三日、喜志子夫人のご来駕をいただき除幕式を行った。その夜、駅前の旅館に泊り、次の夜、久保の進藤春木氏宅に泊り、奥座敷の一室で詠ったものである。

現在、自筆の掛軸として保存されており、それを歌碑としたものである。



喜志子歌碑



若山牧水歌碑

所在地 山梨県北巨摩郡高根町村山北割町農村環境改善センター前

枯すすぎに
からまつの葉
の散り積みて
時雨にぬれし
色のさやけさ

牧水詠旅人書

碑陰

若山牧水歌碑

枯すすぎに
からまつの葉
の散り積みて
時雨にぬれし
色のさやけさ



明治十八年八月二十四日宮崎県
東臼杵郡東郷町坪谷に生まれ 早
稲田大学を卒業する
日本大学時代尾上柴舟に師事する。
豊かな情感と寂寥感があり、清歌は
麗である。歌集に「くろ土」「山
桜の歌」等がある。生涯旅を好み
念場ヶ原に来たのは「木枯紀行」
での旅で、大正十二年十月二十一日
であつた。小淵沢から東井出・長沢を通り
念場ヶ原で九首詠み、当地の旅籠
屋に宿泊し翌日一首詠んでいる。籠
当時の自然の光景が抒情的に表現
されている。

平成三年三月吉日建之
高根町

若山牧水歌碑

所在地 山梨県北杜市高根町村山北割 町村環境改善センター前

枯すすきに
からまつの葉
の散り積みて
時雨にぬれし
色のさやけさ

牧水詠 旅人書

碑陰

若山牧水歌碑

枯すすきに
からまつの葉
の散り積みて
時雨にぬれし
色のさやけさ

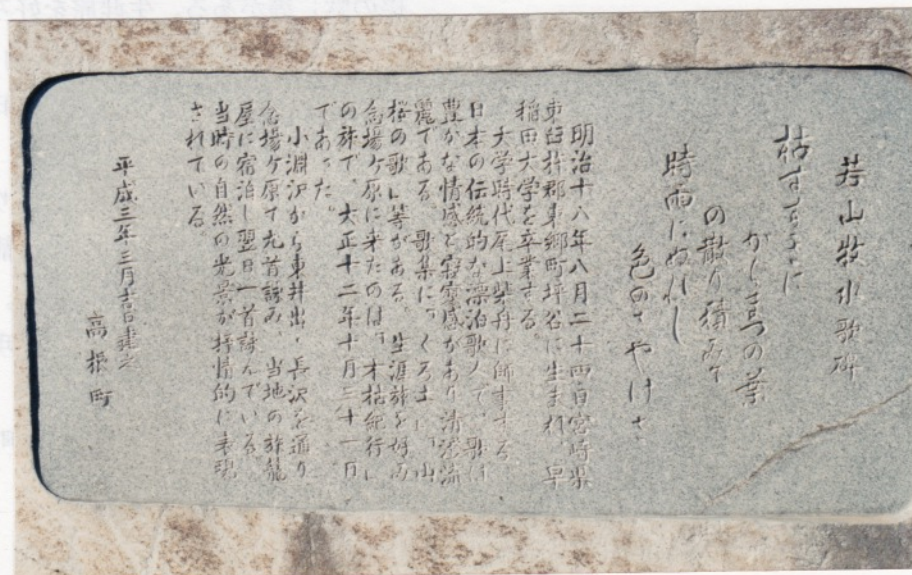
明治十八年八月二十四日宮崎県
東臼杵郡東郷町坪谷に生まれ 早
稲田大学を卒業する

大学時代尾上柴舟に師事する。
日本の伝統的な漂泊歌人で、歌は
豊かな情感と寂寥感があり清澄流
麗である。歌集に「くろ土」「山
桜の歌」等がある。生涯旅を好み
念場ヶ原に来たのは「木枯紀行」
の旅で、大正十二年十月二十一日
であった。

小淵沢から東井出・長沢を通り
念場ヶ原で九首詠み、当地の旅籠
屋に宿泊し翌日一首詠んでいる。
当時の自然の光景が抒情的に表現
されている。

平成三年三月吉日建之／高根町





若山牧水歌碑

所在地 山梨県南巨摩郡早川町赤沢 羽衣橋近くの参道上

若山牧水

山 巖 の

しげきこの山

いづかたの

巖に啼くらむ

筒 鳥 聞 ゆ

碑陰

昭和四十五年十一月二十六日

多くの人たちの協力を得てこれを建てる

早川町観光協会

早川町文化協会



若山牧水歌碑

所在地 山梨県南巨摩郡早川町赤沢 羽衣橋近くの参道脇

若山牧水

山 巖 の

し げ き こ の 山

い づ か た の

巖 に 啼 く ら む

筒 鳥 聞 ゆ

碑陰

昭和四十五年十一月二十六日

多くの人たちの協力を得てこれを建てる

早川町観光協会

早川町文化協会



若山牧水歌碑

所在地 山梨県西八代郡下都賀町下都賀 嘉勢源泉館「別荘」前

山越えて

入りし古驛の霧のおくに

電燈の見ゆ

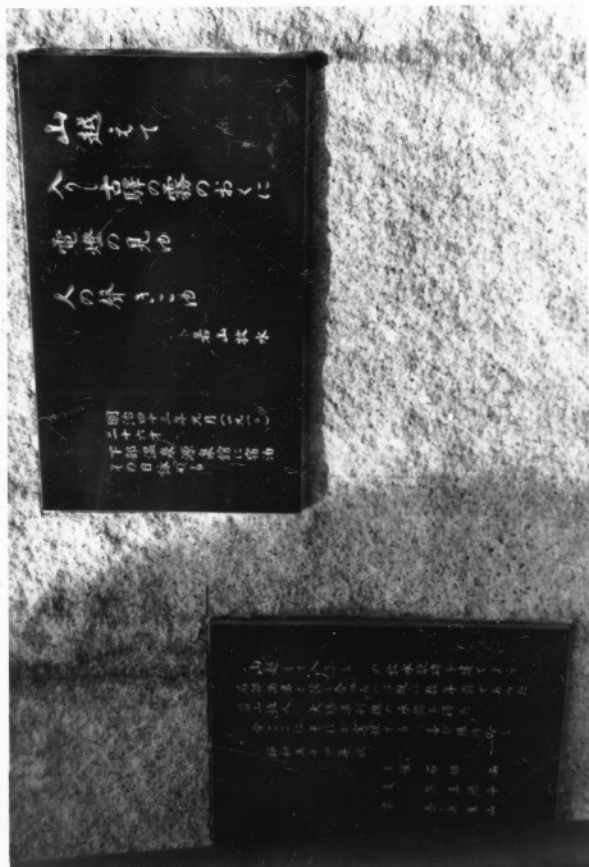
人の聲きこゆ

若山牧水

明治四十三年九月二十九日
下都賀温泉源泉館に宿泊
その日詠める

山越えて入りし 牧水歌碑を建てよう
石部尚君と話し合ったのは既に数年前であった
若山旅人 大悟法利雄の承諾を得た
今ここにそれが実現する 喜び限りなし
昭和五十四年秋

主催 石部尚
書 赤池東徳 山平尚



若山牧水歌碑

所在地 山梨県南巨摩郡身延町下部 45 古湯坊源泉館「別館ホテル神泉」前

山 越 え て

入 り し 古 驛 の 霧 の お く に

電 燈 の 見 ゆ

人 の 聲 き こ ゆ

若山牧水

明治四十三年九月（一九一〇）

二十六才

下部温泉源泉館に宿泊

その日詠める

山越えて入りし の牧水歌碑を建てよう

石部尚君と話し合ったのは既に数年前であった

若山旅人 大悟法利雄の承諾を得た

今ここにそれが実現する 喜び限りなし

昭和五十四年秋

主催 石 部 尚

文 熊 王 徳 平

書 赤 池 東 山



山越えて入りし 泉水数峰を建てる



若山牧水歌碑

所在地 長野県長野市松代町 海津城址

山出で来て

尾長の鳥の

遊ぶらむ

松代町の

春をふもふよ

牧水

碑陰

昭和三年五月三日

中村柊花建



若山牧水歌碑

所在地 長野県長野市松代町 海津城址

山 出 で 来 て

尾 長 の 鳥 の

遊 ぶ ら む

松 代 町 の

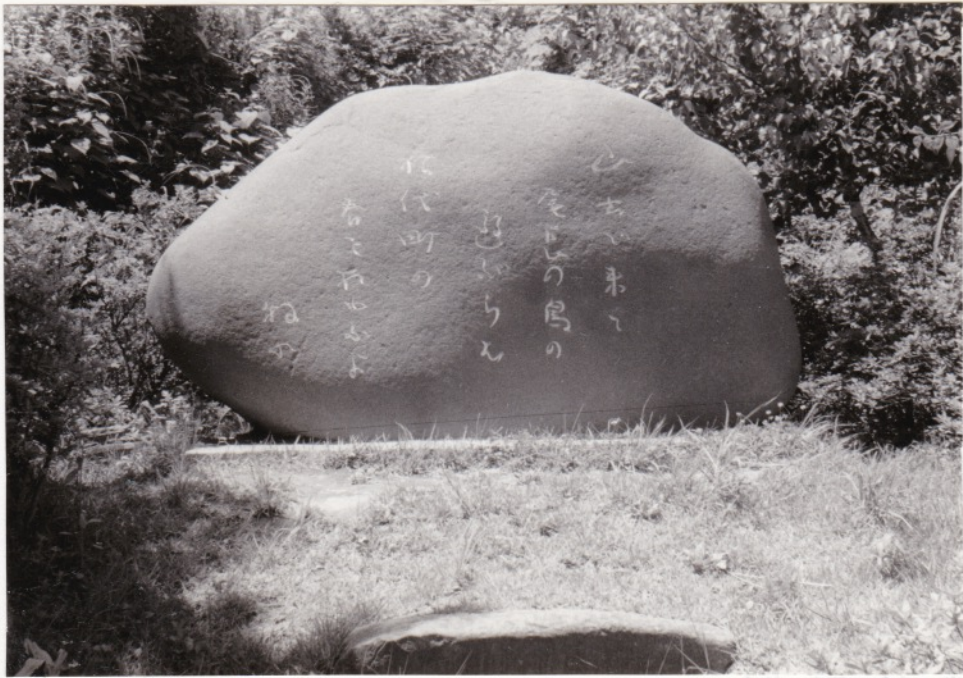
春 を お も ふ よ

牧 水

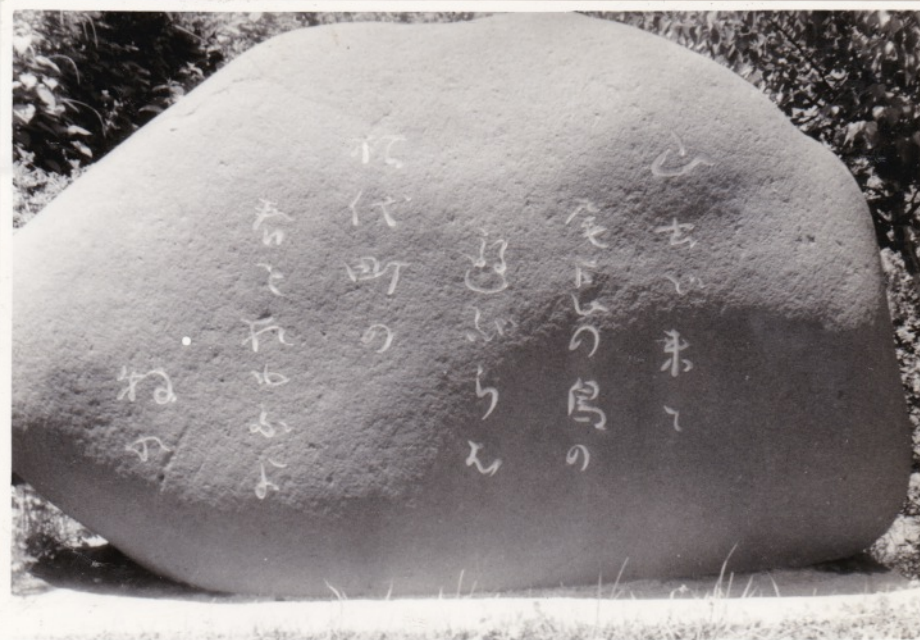
碑陰

昭和三十八年五月三日

中 村 柊 花 建



苔



若山牧水文学碑

所在地 長野県下高井郡山の内町 志賀高原 潤満龍展望台

潤満龍

牧水 碑陰

大正九年五月二十一日

昭和五十八年七月盛夏

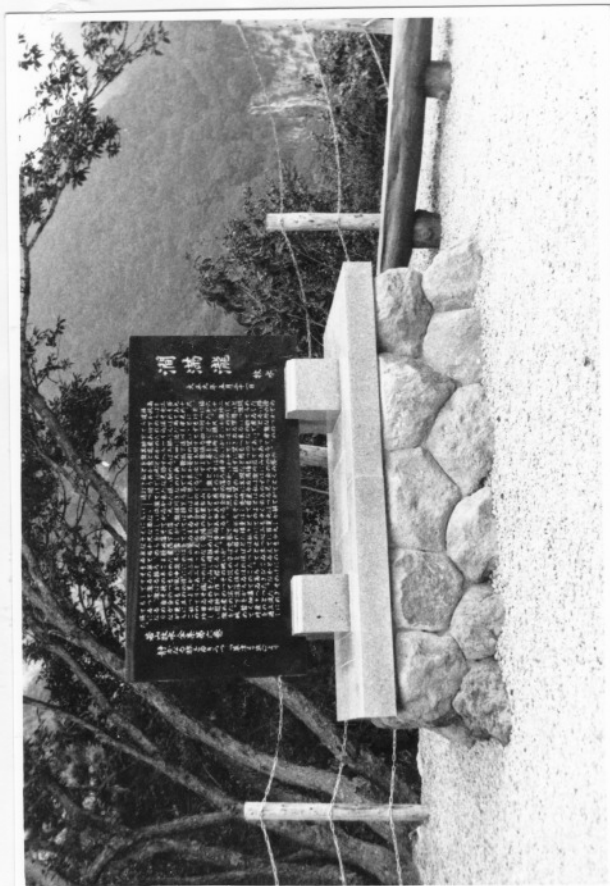
財団法人和合会建之

温泉 天世大観浩昭識

高さ三百九才尺、幅六十二尺と認めた路傍の
棒杭は兎もあれ、とにかく珍しい龍らしいので
道からそれて見に行つた。龍の懸つてゐる所か
ら下の溪は兩岸とも何十尺かの深い断崖となつ
て切れ込んだまゝ、ずつと續いてゐるので、龍の
下あたり近づいて仰ぐことは出来ない。岸の
断崖の一部に遠望する場所がこさへてあつて、
其處から三四丁の間隔をおいて望むのである。
龍と云へば大抵樹木鬱蒼たる中に懸つてゐるの
を常とする。鬱蒼とまではゆかずとも、岩山の蔭
とか峽間の奥とか必ずうす暗い様な場所にのみ
私共は見馴れて来た。ところが、潤満龍は全く
さうでないのである。龍の落口の左右はずつと
打開けた様な高原で、その遠望に今私の見て
通つて来たさうじの山や燕岩等の峻崖はあるが、
龍から川下は左右とも全然の禿岩と云つて
いい、位なる丸裸體の断崖である。そしてよくは解
らないが、龍は多分南か西か、或はその中央か
に面して落ちてゐるのである。水量とても貧し
くないそれがいま太陽に向つて赤裸々に三百九
十尺を落下してゐる姿は歩き勞れた私の心に少
なからぬ興奮を覚えしめた。禿岩とは云つても
左右の断崖には小さな雑木がばらばらと生えて
ゐて、まだ冬のまゝの明るい姿を保つてゐるの
も寧ろこの龍にふさはしく眺められた。ことに
その雑木の中に二丁の山標の花のほころびかけ
てゐるのも風情があつた。その位の高さの
で龍は幾つかの荒い縞を作つて落ちてゐた。そ
して龍そのものよりその下の溪流が湛へつたき
ちつ、自分の立つてゐる断崖の下を細々と流れ
てゐるのが更に私の目を慰めた。暫く崖の上に
横になりながらこの珍しい龍を眺めて時を過し
た。

若山牧水全集第六卷

静かなる旅をゆきつつ「草津より遊べ」より



若山牧水文学碑

所在地 長野県下高井郡山ノ内町 志賀高原 澗満瀧展望台

澗 満 瀧

牧 水

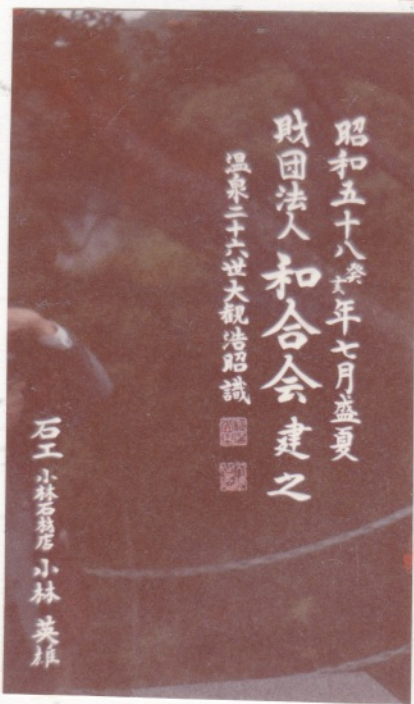
大正九年五月二十一日

高さ三百九十尺、幅六十二尺と認めた路傍の
棒杭は兎^ともあれ、とにかく珍しい瀧らしいので
道からそれて見に行った。瀧の懸^とつてゐる所か
ら下の溪は兩岸とも何十尺かの深い断崖となっ
て切れ込んだまゝずっと續いてゐるので、瀧の
下あたりに近づいて仰ぐことは出来ない。岸の
断崖の一部に遠望する場所がこさへてあつて、
其處から三四丁の間隔をおいて望むのである。
瀧と云へば大抵樹木鬱蒼たる中に懸^とつてゐるの
を常とする。鬱蒼とまではゆかずとも岩山の蔭
とか狭間^{はざま}の奥とか必ずうす暗い様な場所にのみ
私共は見馴れて来た。ところが、澗満瀧は全く
さうでないのである。瀧の落口の左右はずっと
打開けた様な高原で——その遠望に今私の見て
通つて来たさうじの山や燕岩等の峻崖はあるが
——瀧から川下は左右とも全然の禿岩と云つて
いゝ位丸裸體の断崖である。そしてよくは解
らないが、瀧は多分南か西か、或はその中央か
に面して落ちてゐるのである。水量とても貧し
くないそれがいま太陽に向つて赤裸々に三百九
十尺を落下してゐる姿は歩き^{つか} 勞れた私の心に少
なからぬ昂奮を覚えしめた。禿岩とは云つても
左右の断崖には小さな雑木がばらばらと生えて

↓ 澗満瀧



↓ 澗満瀧



ゐて、まだ冬のまゝの明るい姿を保ってゐるのも寧ろこの瀧にふさはしく眺められた。ことにその雑木の中に二三の山櫻の花のほころびかけてゐるのも風情があつた。その位ゐの高さなの

で瀧は幾つかの荒い瀧しまを作つて落ちてゐた。そして瀧そのものよりその下の溪流が湛へつたがちつ、自分の立つてゐる断崖の下を細々と流れてゐるのが更に私の目を慰めた。暫く崖の上に横になりながらこの珍しい瀧を眺めて時を過した。

若山牧水全集第六卷

静かなる旅をゆきつつ「草津より澁へ」より

碑陰

昭和五十八年癸亥年七月盛夏

財団法人 和合会 建之

温泉二十六世 大観浩昭識

のるふ丁。菊を愛する間のくまの夢を、ア
 じう。大いなる山に、おるる山脈のごとく
 ちのりふこまの山脈の三三三中の水脈のす
 のるふ高のふ山脈、大なる山脈のふるふ
 ず。大ふ丁と茶丁とを、山脈のふるふ山脈
 若くは、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈
 山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ

澗満瀧

大正九年五月二十一日

牧水

舟杭は三百九十尺、幅六十二尺と認められた路傍の
 道から、それを見に行つた。瀧の悲しい瀧の所が
 下切の深は、何となく、何となく、何となく、何となく、
 て切れ込みに、近づくにつれて、何となく、何となく、
 断崖の上部に、遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、遠く、
 其處が、三三三の山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 瀧と云へば、大いなる山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 と常とす。山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 私共は見馴れて、来た。どこか、どこか、どこか、どこか、
 打聞けた、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 通つて来た、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 いは、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 ない、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 くに、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 十尺を、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 なから、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 左の、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 めて、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 も、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 てる、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 して、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 ちつ、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 てる、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の
 候に、山脈のふるふ山脈のふるふ山脈のふるふ山脈の

若山牧水全集第六卷

静かなる旅をゆきつ「草津より山より」



若山牧水歌碑

所在地 長野県更級郡上山田町 千曲川万葉公園内

秋風の空

晴れぬれば

千曲川

白き河原に

出てあそぶ

かな 牧水

碑陰

文字なし

左側面

かんがへて飲みはしめたる一合の
二合のさけの夏のゆふぐれ 牧水

若山喜志子歌碑

所在地 長野県更級郡上山田町 千曲川万葉公園内

故郷との

喜志子

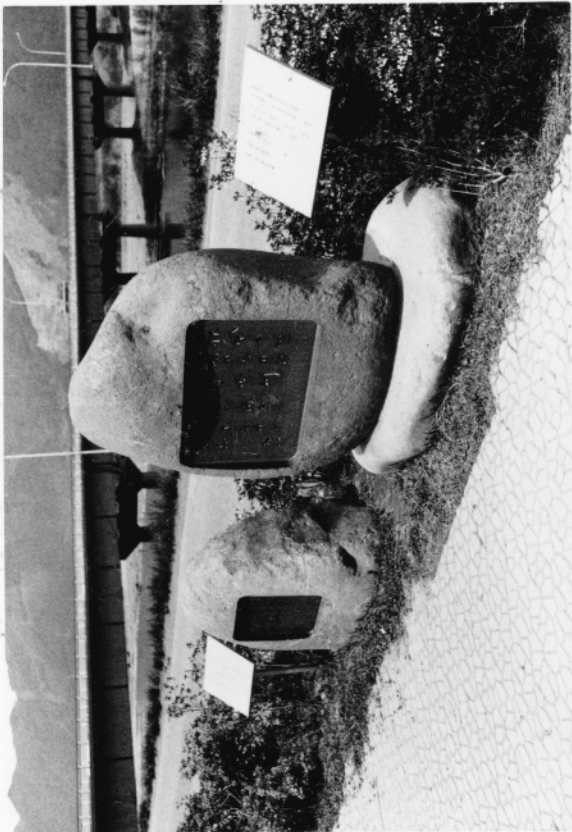
碑陰

文字なし

信濃なるかも

いまぞわが

千曲の川の



若山牧水歌碑

所在地 長野県千曲市上山田町 千曲川万葉公園内

秋 風 の 空

晴 れ ぬ れ ば

千 曲 川

白 き 河 原 に

出 て あ そ ぶ

か な 牧 水

碑陰

文字なし

左側面

かんがへて飲みはじめたる一合の
二合のさけの夏のゆふぐれ 牧水

若山喜志子歌碑

所在地 長野県千曲市上山田町 千曲川万葉公園内

故 さ と の 喜志子

信 濃 な る か も

い ま ぞ わ が

千 曲 の 川 の

長 橋 わ た る

碑陰

文字なし



秋風の 空晴れぬれば 千曲川
 白き河原に 出てあそぶかな 牧水
 かんがえて 飲みはじめたる 一合の
 二合の酒の夏の夕暮れ 牧水

作者 若山牧水
 出典 牧水歌集
 揮毫 若山牧水自筆





若山牧水歌碑

所在地 長野県小諸市 懐古園 城壁の石

かたはらに秋くさの

花かたるらくほろびしものは

なつかしきかな 牧水

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 長野県小諸市丁 311 懐古園内 城壁の石

かたはらに秋くさの

花 かたるらく ほろびしものは

なつかしきかな 牧水

碑陰

文字なし

所在地 長野県小諸市新町迎田丘 宮坂工房 前庭

牧水

幾山河

こえさりゆかば

寂しさの

はてなむ國ぞ

けふも旅ゆく



碑陰

文字なし



苔



若山牧水歌碑

所在地 長野県小諸市新町迎田丘 宮坂工房 前庭

幾山河 牧水

碑陰

文字なし

こえそりゆかば

寂しその

はてなむ國ぞ

けふも旅ゆく

所在地 長野県小諸市市町一丁目 田村医院 本宅庭内

白珠の

碑陰

文字なし

齒にしみとほる

秋の夜の

酒はしづかに

飲むべかりけり

酔牧水



若山牧水歌碑

所在地 長野県小諸市市町 1-2 田村病院 本宅庭内

白珠の

齒にしみとほる

秋の夜の

酒はしづかに

飲むべかりけり

醉牧水



碑陰

文字なし

碑はここの中にある→



本陣跡(重文)



落



若山牧水歌碑

所在地 長野県小諸市 チェリーパークライン(車坂峠の道) 路傍

しらたまの
齒にしみとほる
あきの夜の
酒はしづかに
のむべかりけり

牧水

左側面

車坂峠まで六・二軒

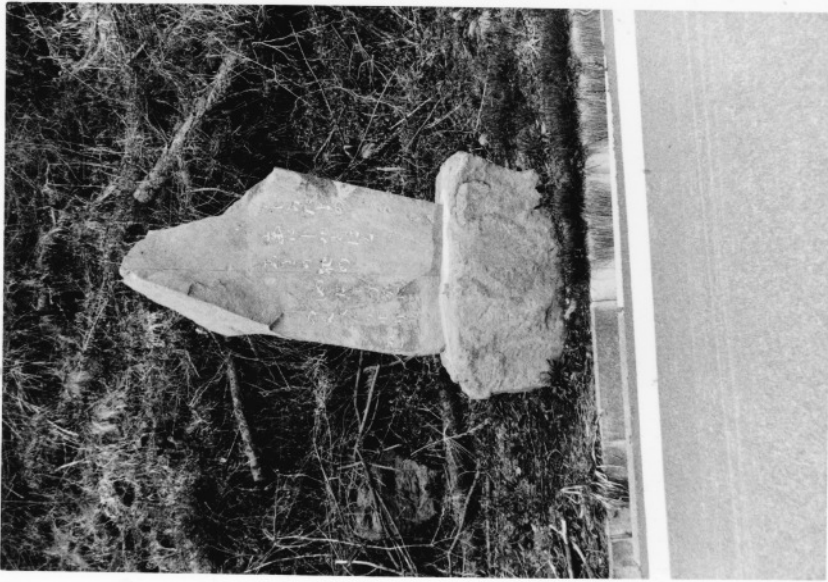
所在地 長野県小諸市 チェリーパークライン(車坂峠の道) 路傍

小諸なる君が一階ゆ
ながめたる浅間のすがた
忘れぬかも

牧水

右側面

車坂峠まで二・二軒



若山牧水歌碑

所在地 長野県小諸市 チェリーパークライン（車坂峠への道）路傍

しらたまの

齒にしみとほる

あきの夜の

酒はしづかに

のむべかりけり

牧水

左側面

車坂峠まで八・二軒

所在地 長野県小諸市 チェリーパークライン（車坂峠への道）路傍

古諸なる君が二階ゆ

ながめたる浅間のすがた

忘れぬかも

牧水

右側面

車坂峠まで一・一軒



小諸市街の展望 ←

若山牧水歌碑

所在地 長野県佐久市岩村田西本二五十一 佐久酒造協会 前庭

白珠の

齒にしみとほる

秋の夜の

酒はしづかに

飲むべかりけり

醉牧水

碑陰

文字なし



若山牧水歌碑

所在地 長野県佐久市岩村田西本 1159-1 佐久酒造協会 前庭

白珠の

齒にしみとほる

秋の夜の

酒はしづかに

飲むべかりけり

酔牧水

碑陰

文字なし

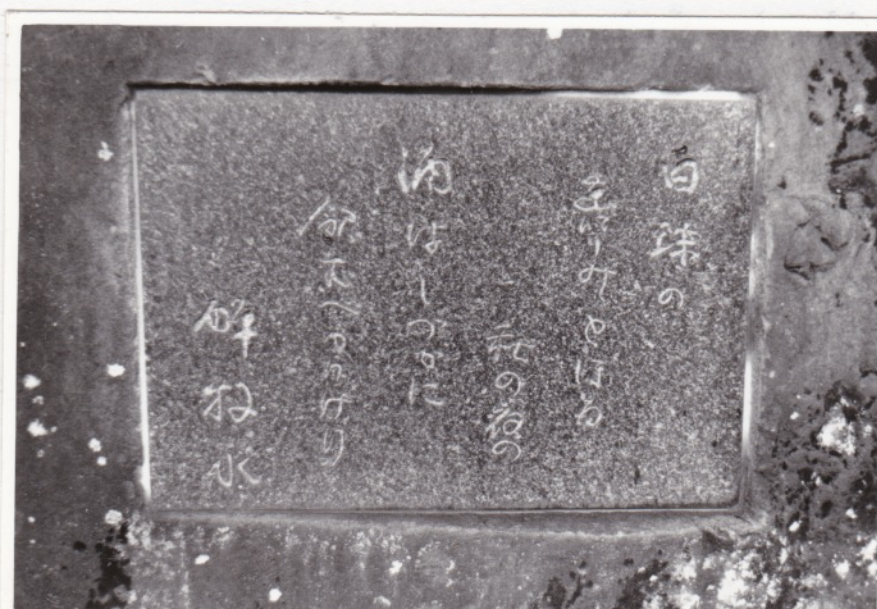




春

白

白



个歌碑

若山牧水歌碑・五島茂・美代子歌碑・佐藤春夫詩碑

所在地 長野県佐久市岩村田 仙祿湖畔

國のさかりに人となり

鳴鶴亭碑

くにおとろえて老となる

舟中 五島茂

ひとの世に

佐久の郡の漂泊を

大人のひとみ声音

よみかへり

たのしみ多し

わくらはととふ人あらは

来る

如し

然れども

雲うるはしと答ふべし

信濃の大人のいしふみを

訪ふ

酒なしにして

みともして

なにのたのしみ

佐藤春夫詩

見せまつらむと

十月亭書

君いひし大夕焼よ

牧水

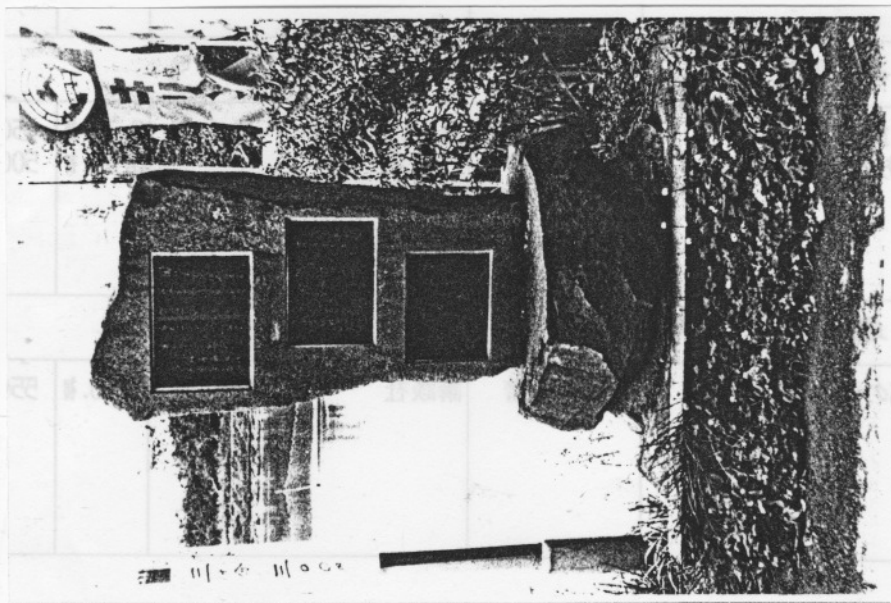
皇子に妃の宮に

(十月亭＝有島生馬)

五島美代子

碑陰

文字なし



若山牧水歌・五島茂・美代子歌・
佐藤春夫詩碑

所在地 長野県佐久市岩村田 仙祿湖畔

昭和四十四年

八月十九日 五島 茂

大人のひとみ声音

よみかへり

ひとの世に

たのしみ多し

國のさかりに人となり

来る

然れども

くにおとろえて老となる

如し

佐久の郡の漂泊を

信濃の大人のいしふみを

酒なしにして

わくらはととふ人あらは

訪ふ

なにのたのしみ

雲うるはしと答ふへし

牧水

佐藤春夫詩

みともして

十月 亭 書

見せまつらむと

(注)十月亭=有島生馬

君いひし大夕焼よ

皇子に妃の宮に

五島美代子

碑陰

文字なし

若山牧水歌碑

所在地 長野県佐久市伴野下県(こま)三三三岸野小学校正門内

わか竹の

牧水

伸びゆくことく

子どもらよ

真すぐにのぼせ

身をたましひを

碑陰

北 三六度一四分三三秒

東経 一三八度五分三三秒

海抜 六四二メートル

建立 昭和五十五年卒業生一同建之



若山牧水歌碑

所在地 長野県佐久市伴野下県（しもがた）1726・2 岸野小学校 正門内

わか竹の

牧水

伸びゆくごとく

子どもらよ

真すぐののばせ

身をたましひを

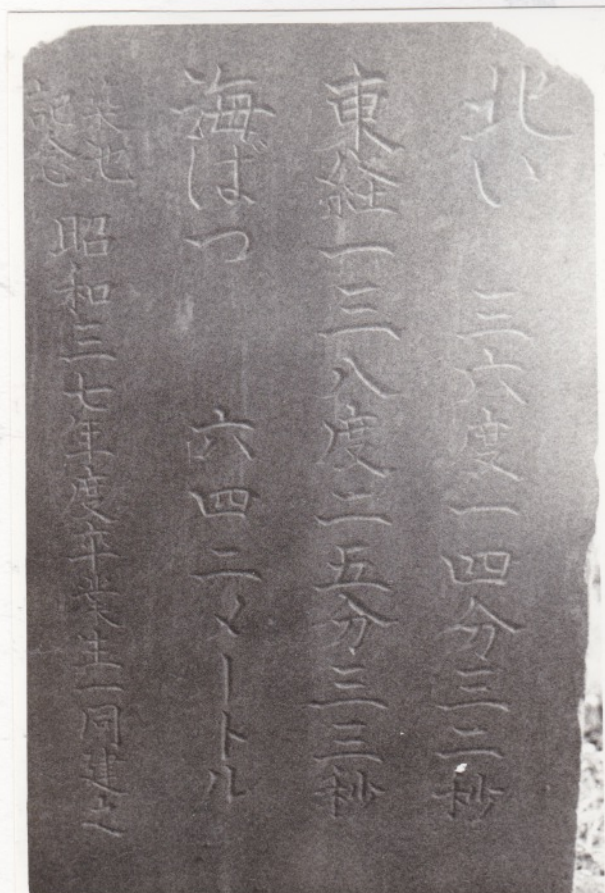
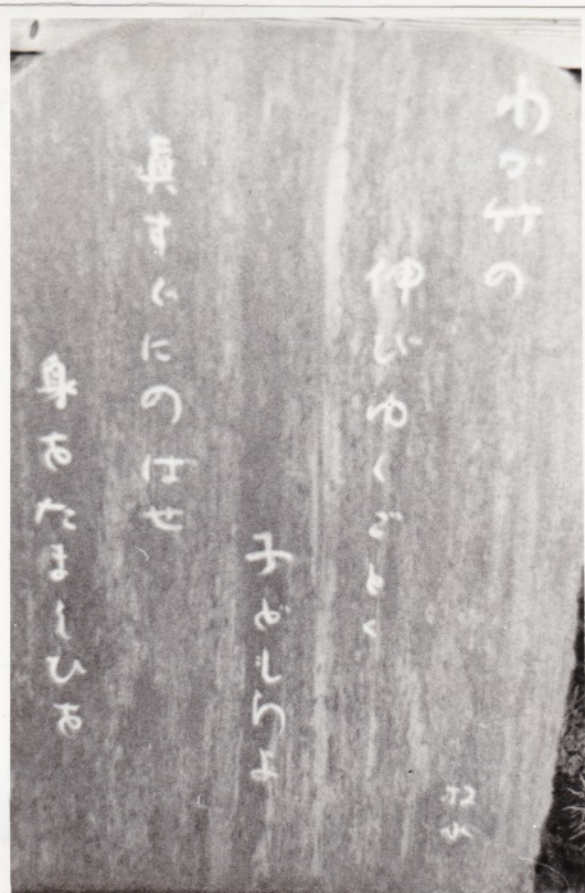
碑陰

北い 三六度一四分三二秒

東経 一三八度二五分三三秒

海ばつ 六四二メートル

築池記念 昭和三七年度卒業生一同建之



若山牧水歌碑

所在地 長野県北佐久郡望月町茂田井三九 武重本家酒造前

しらたまの

歯にしみとほる

秋の夜の

酒はしづかに

飲むべかりけり

牧水

よき酒と

ひとのいふなる

御園竹

われもけふ飲みつ

よしと思へり

牧水

ひとの世に

たのしみ多し

然れども

酒なしにして

なにのたのしみ

牧水

碑陰

昭和四十二年六月六日

武重孝一建之



若山牧水歌碑

所在地 長野県佐久市望月町茂田井 2179 武重本家酒造 前

しらたまの
齒にしみとほる
秋の夜の
酒はしづかに
飲むべかりけり
牧 水

よき酒と
ひとのいふなる
御園竹
われもけふ飲みつ
よしと思へり
牧 水

ひとの世に
たのしみ多し
然れども
酒なしにして
なにのたのしみ
牧 水

碑陰

昭和四十二年八月十八日

武重孝一建之



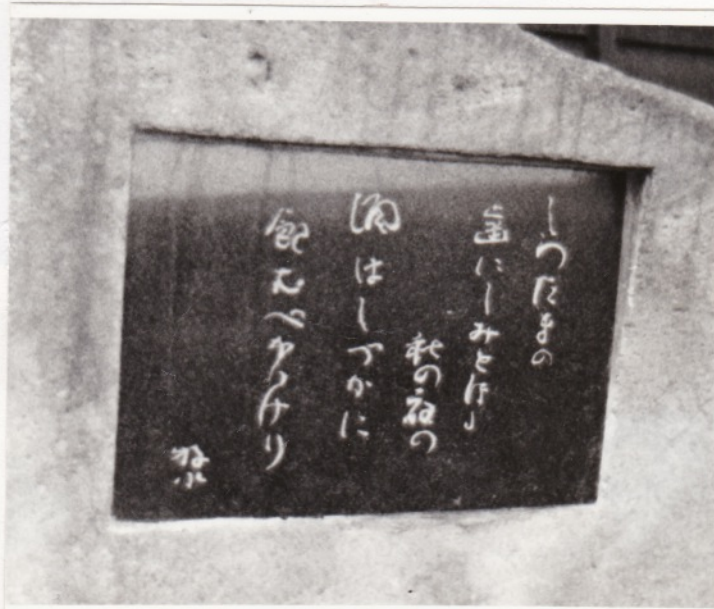


山 寺

山 寺



も 野 寺
 る 水 曳 杖 の 址
 竹 園 崎
 へ 水 曳 杖 の 址
 へ 思 へ ば
 水 野



若山牧水歌碑・若山喜志子歌碑

所在地 長野県北佐久郡立科町芦田八ヶ野 蓼科牧場入口近く

ふくらかの

立科山の

たち姿

佐久の花野に

すそ引き

のべて

喜志子

碑陰

共に文字なし

見よ旅人

秋も末なる山々の

いただき白く

雪つもり来ぬ 牧水



若山牧水歌碑・若山喜志子歌碑

所在地 長野県北佐久郡立科町芦田八ヶ野 蓼科牧場入口近く

ふくらかの

立科山の

たち姿

佐久の花野

に

すそ引き

のべて

喜志子

見よ旅人

秋も末なる山々の

いただき白く

雪つもり来ぬ 牧水

碑陰

共に文字なし

歌碑↓



煙子志喜山苔・軒煙木妙山苔



人龍も良



若山牧水歌碑

所在地 長野県南佐久郡川上村桶沢 石梨村の驛の下

入りゆかむ
千曲の川の
みなかみの
峰 仰ぎ
みれば
はるけ
かりけり

牧水詠旅人書

碑陰

大正十二年 本村に
おいて詠める漂泊の
歌人 若山牧水 生誕
百年を記念して 建立
する
揮毫は牧水の長子である
昭和五年十二月
川上村

